

女性技術者からひとこと

磯シーグ 佐藤 美佐子

4月1日（エイプリルフル）、夕方施主との打合せを終えて帰社した私の机の上に突然のAポ無しFAXがありました。東北地質調査業協会、広報委員会様から「大地」への寄稿依頼のFAXです。このFAX本物？それともエイプリルフル？秋田弁の「かつがれた」FAXかもしれない。だってその時の私は、「大地」って何？の状態。当社は、平成11年4月1日、東北地質調査業協会に入会が承認され、翌日2日に承認書類と「大地」が配達された次第で、「大地」を読んだのは、寄稿依頼の次の日だったのです。おまけに「女性技術者シリーズ」アレ！4月1日から男女雇用均等法で男女の区別してはいけないと朝から新聞等を書いてあったような…。これは問題の多いFAX。

取りあえず東邦技術(株)の地質部様より「大地」21～28号まで貸していただき、読ませていただきました。内容が濃い。技術者、営業、現場、社員全員がそれぞれに読む事ができる。いい本ですね。でも、私が寄稿などと大それた事を書くことができるのだろうか。これが私の印象でした。

実を申しますと私は、結婚してから初めてこの業界と関わりあう事になった訳で、ボーリングって玉を転がすボウリングしか知らなく「主人は、ボウリング場を経営している人の息子なんだって」と友達に話したくらいなんです。以前「大地」に寄稿している方々は、皆専門の勉強をしている方ばかりなので、只の人の私は、大変なプレッシャーです。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、当社は約官民半分づつくらいの受注をしております。主に私が担当しておりますのは、民間の地質調査と工事部門です。施主さんは、ボーリングとボウ

リングの区別の付かない方から専門の用語まで知っている方まで千差万別。なにしろ少数精鋭(?)の小企業なものですから、私もなんでも手掛けなければなりません。夕方現場から帰って来た社員の話しを聞き、アドバイスをしてあげれるようにと、地質調査技士の勉強をしました。地質調査技士は、6年がかりで5回目でやっと合格することができました。やはり現場では掘進率の悪い時が1番頭を悩ませているようです。地層に合ったビットの選定、泥水の管理等、社員の人が帰ってきたら現場の報告や状況を良く聞いたり、見たりするように気を付けるようにしています。調査のボーリング機械は、殆ど変化していないのですが、以前に比べると大分原位置試験の割合が多くなり、現場で働く人もただ掘削すれば良いという時代では無くなっています。でもボーリングは、コアが命。人柄まで見えてくるような気がします。技術的なことは、お読みになっている方のほうが良くわかっていると思うので、私は結婚、子育てについて書きたいと思います。

結婚については、パートナーと良く話し合い、お互いを理解し合う事で何とか解決できると思えますが、問題は子育てがとても大変だという事です。

(現在私は高2の息子が1人)子育ては、技術職というのではなく、働く母親は皆同じだと思うのですが、いくら男女が同じと法律で決められたとしても、子供にとって母親は、特別な存在です。保育園に行きたくない泣く我が子に「こんなに泣かせてまで自分が働く必要があるのだろうか」と一時悩んだ時もありました。保育園から熱が出たとの連絡が入り退職。風疹、おたふく風邪が流行れば会社を休み、本当に会社に迷惑をかけてし

まいりました。つい何でも（仕事と家庭）頑張り過ぎて、イライラし子供に当たったりしたこともあります。子供って親がイライラすると落ち着きが無くなり、すぐわかるものなのです。私が今、15年間会社で働いて思うことは、無理をせず、頑張り過ぎない事だと思います。結局無理をして仕事をしても、かえって他の人に迷惑をかけてしまいます。会社は信用が一番です。

就業規則では、育児休業や育児時間の見直しが行われて、10年前よりずっと働きやすい環境になってきましたが、職場の方にお願いがあります。もし、回りに子育て中の母親がいたら10年間ちょっ

と長い目でみてほしいと思います。10年たてば以前よりずっと成長した、大人の女性を見ることができることでしょう。

岐路に立ったとき、一番良い選択は誰にもわかりません。何方かと言うと後悔する方が多いような気がします。でもきっと未来は明るいと感じて、一日一日を大事に過ごす事が一番大切な事なのではないでしょうか。最後、カッコ良く書いてしまいましたが、記憶の隅に少しでも残ると幸いに思います。

では、働く女性のご健闘を秋田の空からお祈りしております。

